

日本医師会 ハーバード大学 武見太郎記念国際シンポジウム

ー地域医療システムとイノベーション

：UHC（ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ）の基盤を築くー

開催について

1. 日 程：平成 30 年 2 月 17 日（土）9:00-17:00
2. 場 所：日本医師会館 大講堂
3. 主催者（共催）：日本医師会、ハーバード大学 T. H. Chan 公衆衛生大学院
東京都医師会、公益信託 武見記念生存科学研究基金
4. コンセプト

1983 年、故武見太郎日本医師会元会長、世界医師会元会長が提唱した、「生存科学」の概念に基づく「医療資源の開発と配分」の構想に着目したハーバード大学は、その学問の発展を図るため、日本医師会の協力の下に、同大学公衆衛生大学院に「武見国際保健プログラム（以後、武見プログラム）」を設置した。これまで日本人フェロー61名を含む54カ国281名の武見フェローが輩出され、国際保健の第一線で活躍するなど、その国際ネットワークは世界中に広がっている。同プログラムの設立から35年を経た今、少子高齢社会におけるあらゆる課題が集約されている我が国で、世界が直面する課題を、地域社会と地球規模というミクロ・マクロ両面から論議する場として本シンポジウムは企画された。

また、2015年に国連総会で採択された持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals：SDGs）の中で、Universal Health Coverage（UHC）の重要性が指摘されている。本シンポジウムは、少子高齢社会の下、国民皆保険に支えられた日本の地域医療と国際展開に関する経験と叢智を世界に発信し、21世紀におけるわが国の地域医療の近未来を創造し、UHCの基盤構築に貢献することを目的としている。

5. 関連会議

日 程：平成 30 年 2 月 18 日（日）① 10:00-13:00、② 14:00-17:00

場 所：東京都医師会館 講堂

① 武見プログラム設立 35 周年記念フォーラム

過去 35 年間にわたる武見プログラムの国際保健への貢献を基に、様々な分野で活躍する武見フェローの活動の現状を共有し、将来展望を述べる。主題としては前日の会議に連動させ少子高齢社会の健康格差是正を取り上げる。

② 2020 年東京オリンピック・パラリンピックのレガシーとしての健康・タバコフリー社会づくりに関する国際会議

日本は経済成長期の1964年に続き、少子高齢社会となった2020年にオリンピック・パラリンピックを開催する。この時代背景の違いは、これらの大会の新しい意義を考える契機となる。大規模感染症の予防や、救急疾患の対応といった従来型の医療対策はこれまでに種々論じられてきた。この会議では、オリンピック・パラリンピックがすべての人々の健康にどのような良い効果をもたらすことができるかを論じ、未来に続くレガシーはどのようなものかを提言する。

6. 対象：医療関係者、研究者、学生、関係団体・企業、その他一般

7. 開催概要／プログラム詳細、参加申込方法

ウェブサイト URL：<http://www.jma-takemi.com> 参照

8. 本件に関するお問い合わせ

日本医師会 ハーバード大学 武見太郎記念国際シンポジウム実行委員会事務局
株式会社 ジャパン・カウンセラーズ内（担当者：村田）

〒101-0065 東京都千代田区西神田 1-3-6 ウエタケビル 4F

TEL：03-3291-0118、FAX：03-3291-0223

E-mail：jma-takemi2018@jc-inc.co.jp

以上

日本医師会 ハーバード大学 武見太郎記念国際シンポジウム
ー地域医療システムとイノベーション
: UHC (ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ) の基盤を築くー

**JMA Harvard Taro Takemi Memorial International Symposium
-Community Health Systems and Innovations:
Building the Foundation for Universal Health Coverage-**

概要

日程

2018年2月17日(土) 9:00-17:00

主会場

日本医師会館 大講堂

主催者(共催)

日本医師会
ハーバード大学公衆衛生大学院
東京都医師会
公益信託 武見記念生存科学研究基金

後援(予定)

厚生労働省、外務省、内閣府、経済産業省、文部科学省、東京都

コンセプト

2015年に、国連総会で採択された持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals:SDGs)の中で、Universal Health Coverageの重要性が指摘されている。本シンポジウム「地域医療システムとイノベーション:UHCの基盤を築く」では、少子高齢社会の先進国として、われわれのコミュニティヘルスと国際展開に関する経験と叡智を世界に発信する。21世紀における、わが国の地域医療の近未来を創造し、アジア各国におけるUHCの基盤構築に貢献する。

プログラム

2月17日(土)

08:50 - 09:00 開会案内と武見プログラム紹介ビデオ・スライド供覧

午前

09:00 - 09:10 開会

道永麻里、日本医師会常任理事
主催者挨拶
横倉義武、日本医師会長、世界医師会長
武見敬三、参議院議員
来賓挨拶
鈴木康裕、厚生労働省医務技監

基調講演

座長：中谷 比呂樹、WHO 執行理事、慶應義塾大学グローバルリサーチインスティテュート (KGRI) 特任教授

9:10-9:40 **基調講演 1**

「社会的不平等軽減のための健康政策」
サー・マイケル・マーモット、世界医師会元会長、ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン疫学教授

9:40-10:00 **基調講演 2**

「ユニバーサル・ヘルス・カバレッジをめざして：一步一步の進歩」
マイケル・ライシュ、ハーバード大学公衆衛生大学院 武見プログラム主任教授、国際保健政策教授

10:00-10:20 **基調講演 3**

「世界医師会の貢献」
横倉 義武、日本医師会長、世界医師会長

10:20-10:30 休憩

セッション 1: 地域医療と健康長寿：少子高齢社会、日本の経験

座長: 武見 敬三、参議院議員

10:30-10:50 **講演 1**

「少子高齢社会におけるライフサイクル・アプローチ」
後藤 あや、福島県立医科大学総合科学教育研究センター教授

10:50-11:10 **講演 2**

「地域医療における生活習慣病対策」
磯 博康、大阪大学大学院医学系研究科社会医学講座教授

- 11:10-11:30 **講演 3**
「健康長寿における地域医師会の貢献及び高齢者の在宅医療と地域医療支援に向けた病院の変革（地域包括ケア）」
鈴木 邦彦、日本医師会常任理事
- 11:30-11:50 **講演 4**
「インドにおける UHC 達成のためのプライマリ・ケア：高齢者を含むすべての人々のために（仮）」
スジャータ・ラオ、前インド保健家族省大臣
- 11:50-12:00 Q &A
- 12:00-13:00 昼食

午後

特別講演

座長：尾崎 治夫、東京都医師会長

- 13:00-13:20 「2012 年ロンドンオリンピック・パラリンピックの経験から学ぶ：保健課題への対処（仮）」
ブライアン・マクロスキー英勲爵士、大規模イベントと地球規模健康危機管理に関する WHO 協力センター
- 13:20-13:40 「リオオリンピック・パラリンピックの経験から学ぶ：オリンピックの全体的な健康への影響」
マルシア・カストロ、ハーバード大学公衆衛生大学院 国際保健人口学部 人口統計学准教授

セッション 2: 地域と世界をつなぐイノベーション

座長：笠貫 宏、早稲田大学特命教授

- 13:40-14:00 **講演 1**
「IT 革新、システム、社会革新：PeOPLe（患者・国民を中心に保健医療情報をどこでも活用できるオープンな情報基盤）」
宮田 裕章、慶應義塾大学医学部医療政策・管理学教室教授
- 14:00-14:20 **講演 2**
「認知症ケアを支えるイノベーション、認知症をめぐる技術・社会革新、包括的支援認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）」
大田 秀隆、厚生労働省老健局人視聴施策推進室認知症対策専門官

- 14:20-14:40 **講演 3**
「介護分野の革新、ICT の活用と社会革新」
高橋 泰、国際医療福祉大学医療経営管理教授
- 14:40-15:00 **講演 4**
「地域医療の最前線で—イノベーションによる前進と状況による制約」
ジェシー・バンプ、ハーバード大学公衆衛生大学院 武見プログラム事務局長、
国際保健政策講師
- 15:00-15:10 Q & A
- 15:10-15:20 休憩

セッション 3: 地域医療の国際展開を支える枠組み

座長: マイケル・ライシュ、ハーバード大学公衆衛生大学院 武見プログラム主任教授、
国際保健政策教授

- 15:20-15:40 **講演 1**
「世界と国の保健政策をつなげる国際的財政支援」
ミッキー・チョプラ、世界銀行保健サービス課長
- 15:40-16:00 **講演 2**
「コラボレーションのパラダイムシフト：アジアの健康イニシアチブ」
武見 敬三、参議院議員
- 16:00-16:20 **講演 3**
「規制当局による医薬品、医療機器等アクセスを高める国際協調のダイナミズム」
近藤 達也、PMDA（医薬品医療機器総合機構）理事長

総括講演とまとめ

座長: 道永 麻里、日本医師会常任理事

- 16:20-16:40 「UHC の基盤となる生存科学」
永井 良三、自治医科大学学長
- 16:40-17:00 3 セッションの座長による総括
武見 敬三、笠貫 宏、マイケル・ライシュ
- 17:00 閉会

関連会議

武見プログラム設立 35 周年フォーラム

Takemi Program 35th Anniversary Forum

概要

日時

2018 年 2 月 18 日（日） 10:00-13:00

会場

東京都医師会館 講堂

主催者（共催）

日本医師会

ハーバード大学公衆衛生大学院

東京都医師会

公益信託 武見記念生存科学研究基金

後援（予定）

厚生労働省、外務省、内閣府、経済産業省、文部科学省、東京都

コンセプト

過去 35 年間にわたる武見プログラムの国際保健への貢献を基に、様々な分野で活躍する武見フェローの活動の現状を共有し、将来展望を述べる。主題としては前日の会議に連動させ少子高齢社会の健康格差是正を取り上げる。

プログラム

- 10:00-10:15 **開会挨拶**
横倉 義武、日本医師会長、世界医師会長
- 基調講演**
座長: 丸井 英二、人間総合科学大学教授
- 10:15-10:35 **基調講演 1**
「武見プログラムの現状と発展」
マイケル・ライシュ、ハーバード大学公衆衛生大学院 武見プログラム主任教授
ジェシー・バンプ、武見プログラム事務局長
エミリー・コールズ、武見プログラムコーディネーター
- 10:35-10:55 **基調講演 2**
「武見プログラムを泉源とする政策提言」
武見 敬三、参議院議員
- セッション：地球規模課題に挑む武見フェローの活躍と今後の展望—少子高齢社会における健康格差是正の成功事例**
座長：神馬 征峰、東京大学大学院医学系研究科国際地域保健学教授
- 11:00-11:15 **講演 1**
「日本の少子高齢社会における健康格差の課題と是正の取り組み」
近藤 尚己、東京大学大学院医学系研究科公共健康医学専攻保健社会行動学分野准教授
- 11:15-11:30 **講演 2**
「韓国の少子高齢社会におけるリプロダクティブヘルス対策の課題：産科医療が困難な遠隔地における政府助成金の格差是正効果」
ジュワン・オウ、国立ソウル大学医学部国際保健政策・マネジメント学部教授
- 11:30-11:45 **講演 3**
「台湾の遠隔地農村部における高齢者と若年者へのケア：少子高齢社会の課題」
ソロモン・チェン、恒春キリスト教病院院長
ロー・ティン・リン、中国医薬大学公衆衛生学院労働安全衛生学部助教授
- 11:45-12:00 **講演 4**
「自殺対策：働きざかりの自殺」
崎坂 香屋子、国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 自殺総合対策推進センター
- 12:00-12:45 指定発言・Q&A
- 12:45-13:00 「武見フェロー宣言」採択
- 13:00 閉会

関連会議

**2020年東京オリンピック・パラリンピックのレガシーとしての
健康・タバコフリー社会づくりに関する国際会議**

**International Meeting on Healthy and Tobacco Free Tokyo as Consequence
-Legacy of Tokyo 2020 Olympics and Paralympics -**

概要

日時

2018年2月18日（日）14:00-17:00

会場

東京都医師会館 講堂

主催者（共催）

日本医師会

ハーバード大学公衆衛生大学院

東京都医師会

公益信託 武見記念生存科学研究基金

後援（予定）

厚生労働省、外務省、内閣府、経済産業省、文部科学省、東京都

コンセプト

日本は経済成長期の1964年に続き少子高齢社会である2020年にオリンピック・パラリンピックを開催する。この時代背景の違いは、オリンピック・パラリンピックの新しい意義を考える契機となる。オリンピック・パラリンピックが成功裏に開催されるために、大規模感染症の予防や、救急疾患の対応といった従来型の医療対策はこれまでに種々論じられてきた。この会議では、オリンピック・パラリンピックがすべての人々の健康にどのような良い効果をもたらすことが出来るかを論じ、未来に続くレガシーはどのようなものかを提言する。

プログラム

- 14:00-14:15 **開会挨拶**
尾崎 治夫、東京都医師会長
横倉義武、日本医師会長、世界医師会長
東京都知事
朝日健太郎、参議院議員
- 基調講演**
座長: 角田 徹、東京都医師会副会長
- 14:15-14:40 **基調講演 1**
「ロンドン オリンピック・パラリンピックの経験から一般国民の健康づくりへの影響を学ぶ (仮)」
ブライアン・マクロスキー英勲爵士、大規模イベントと地球規模健康危機管理に関する WHO 協力センター
- 14:40-15:05 **基調講演 2**
「リオ 2016 オリンピック・パラリンピックの経験から一般国民の健康づくりへの影響を学ぶ」
マルシア カストロ、ハーバード大学公衆衛生大学院国際保健人口学部人口統計学准教授
- 15:05-15:30 **基調講演 3**
「少子高齢社会におけるオリンピック・パラリンピックを契機に健康になるというレガシー」
尾崎 治夫、東京都医師会長
- セッション: 東京オリンピック・パラリンピックがトップアスリートのためだけではなく、国民の健康増進や健康寿命の延伸にどう役立つか**
座長: 鳥居 明、東京都医師会理事
- 15:30-15:45 **講演 1**
「競技スポーツのエビデンスが示唆する健康増進の今後の取り組み」
中田 研、大阪大学大学院医学部健康スポーツ科学スポーツ医学教授
- 15:45-16:00 **講演 2**
「運動グループへの参加による健康長寿効果」
近藤 克則、千葉大学予防医学センター社会予防医学教授
- 16:00-16:15 **講演 3**
「小児に対するオリンピック・パラリンピックのレガシーとしての意義」
岡田 知雄、神奈川工科大学応用バイオ科学部栄養生命科学科教授

- 16:15-16:30 **講演 4**
「運動と健康－生涯スポーツ論と性差の観点から」
工藤 保子、大東文化大学スポーツ・健康科学部スポーツ科学科准教授
- 16:30-16:45 **講演 5**
「運動は医療である－運動が健康にもたらす良い効果－」
山内 潤一郎、首都大学東京大学院人間健康科学研究科准教授
- 16:45-16:55 **Q & A**
- 16:55-17:00 **まとめと閉会**

JMA Harvard
Taro Takemi
Memorial International
Symposium

日本医師会 ハーバード大学 武見太郎 記念国際シンポジウム

地域医療システムとイノベーション
: UHC (ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ) の基盤を築く

Community Health Systems and Innovations: Building the Foundation for Universal Health Coverage



横倉義武
日本医師会長/
世界医師会長



マイケル・ライシュ
ハーバード大学公衆衛生大学院
武見プログラム主任教授/
国際保健政策教授



サー・マイケル・マーモット
世界医師会元会長/
ユニバーシティ・カレッジ・
ロンドン疫学教授

開催日: 2018年 2月17日(土) 9:00-17:00

会場: 日本医師会館 大講堂

関連会議 開催日 2018年2月18日(日) 会場 東京都医師会館 講堂	10:00-13:00	武見プログラム設立35周年フォーラム
	14:00-17:00	2020年東京オリンピック・パラリンピック のレガシーとしての健康・タバコフリー 社会づくりに関する国際会議

主催 (共催) : 公益社団法人 日本医師会 ハーバード大学公衆衛生大学院 公益社団法人 東京都医師会
公益信託 武見記念生存科学研究基金

後援 (予定) : 厚生労働省、外務省、内閣府、経済産業省、文部科学省、東京都



日本医師会 ハーバード大学 武見太郎記念 国際シンポジウム

JMA Harvard Taro Takemi Memorial International Symposium

2018年 2月17日(土) 9:00-17:00

主な登壇者	基調講演1	サー・マイケル・マーモット 世界医師会元会長、ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン疫学教授 「社会的な不平等軽減のための健康政策」
	基調講演2	マイケル・ライシュ ハーバード大学公衆衛生大学院武見プログラム主任教授/国際保健政策教授 「ユニバーサル・ヘルス・カバレッジをめざして: 一步一步の進歩」
	基調講演3	横倉 義武 日本医師会会長、世界医師会会長 「世界医師会の貢献」
	セッション1	座長: 武見 敬三 参議院議員 テーマ: 地域医療と健康長寿: 少子高齢社会、日本の経験
	セッション2	座長: 笠貫 宏 早稲田大学特命教授 テーマ: 地域と世界をつなぐイノベーション
	セッション3	座長: マイケル・ライシュ ハーバード大学公衆衛生大学院武見プログラム主任教授/国際保健政策教授 テーマ: 地域医療の国際展開を支える仕組み
会場	日本医師会館 大講堂	〒113-8621 東京都文京区本駒込2丁目28-16 ■JR山手線:「駒込駅」南口より徒歩約10分 ■東京メトロ南北線:「駒込駅」より徒歩約10分 ■都営地下鉄三田線:「千石駅」より徒歩約8分
		

関連会議 2018年 2月18日(日)

10:00-13:00	武見プログラム設立35周年フォーラム 武見プログラムによる 35 年間の国際保健への貢献をもとに、様々な分野で活躍する武見フェローの活動の現状を共有し将来展望を述べます。主題としては前日のシンポジウムと連動して少子高齢社会の健康格差是正を取り上げます。
14:00-17:00	2020年東京オリンピック・パラリンピックのレガシーとしての健康・タバコフリー社会づくりに関する国際会議 日本は経済成長期の1964年に続き、少子高齢社会である2020年にオリンピック・パラリンピックを開催します。この時代背景の違いは、オリンピック・パラリンピックの新しい意義を考える契機となります。この会議では、オリンピック・パラリンピックが全ての人の健康にどのような良い効果をもたらすことができるかを論じ、未来に続くレガシーはどのようなものかを提言します。
会場	東京都医師会館 講堂 〒101-8328 東京都千代田区神田駿河台2-5 ■JR 中央・総武線: 御茶ノ水駅(御茶ノ水橋出口)下車徒歩約2分 ■東京メトロ丸の内線: 御茶ノ水駅(2番出口)下車徒歩約4分 ■東京メトロ千代田線: 新御茶ノ水駅(B1出口)下車徒歩約5分
	

